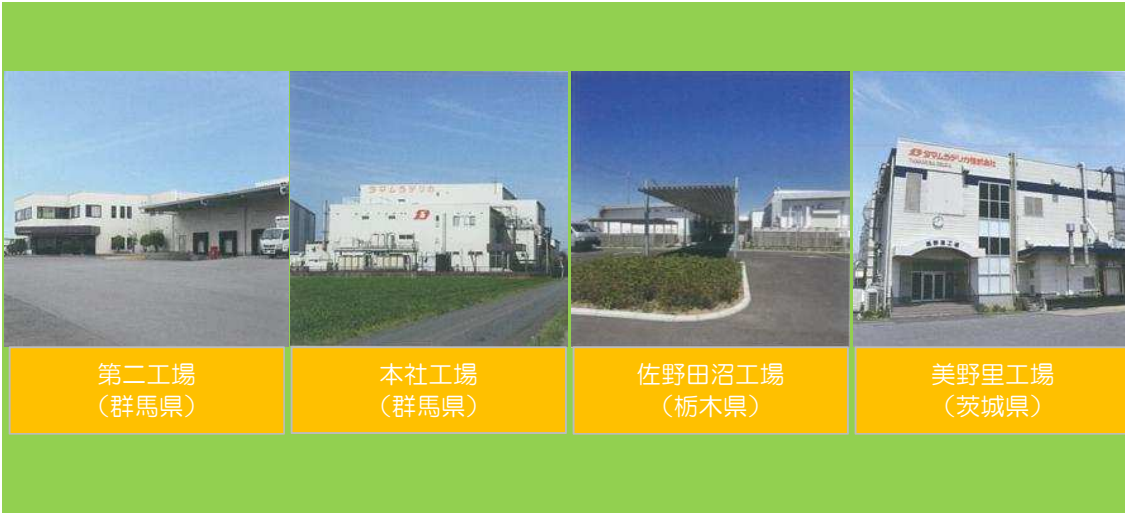


# 2019年度 環境活動レポート

【レポートの対象期間：2019年2月1日～2020年1月31日】

## タムムラデリカ株式会社



### 《ご挨拶》

タムムラデリカ株式会社は1991年創業以来、食品製造業として歩んで参りました。大手CVS専用工場として「調理麺」「惣菜」等のデイリー商品を群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県の北関東地域に365日供給しております。

安心、安全で美味しい商品を時代の変化やお客様のニーズに対応しながら提供し続ける事で信頼される企業を目指しております。

企業規模も年々拡大の一途を辿り、企業として益々社会的責任と環境配慮が問われていく事は必然であり、社会の公器としてしっかり対応していく事を義務として取り組んで参ります。

この様な社会情勢の中、当グループでも2015年より取り組みを開始したEA21活動は地球環境に優しい企業活動として大きな役割を担っており、グループ4工場全てがEA21認証工場として現在に至っております。

継続した活動と検証無くして成長はないと考えており「環境活動レポート」は一年間の集大成であり自工場の成長の証と認識しております。

以下、取り組みをまとめましたので我々の活動内容をご高覧の上、ご指導頂きました後、引き続き環境活動に活かして参る所存です。

タムムラデリカ株式会社  
常務取締役  
高橋 康之

## 《目次》

1. 環境経営方針	3ページ
2. 事業活動の規模	4ページ
3. EA21推進体制	5ページ
4. 本社工場	6～10ページ
① 事業活動の規模（2019年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取組みと評価	
④ 2019年本社工場トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
5. 第二工場	11～15ページ
① 事業活動の規模（2019年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取組みと評価	
④ 2019年第二工場トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
6. 美野里工場	16～20ページ
① 事業活動の規模（2019年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取組みと評価	
④ 2019年美野里工場トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
7. 佐野田沼工場	21～25ページ
① 事業活動の規模（2019年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取組みと評価	
④ 2019年佐野田沼工場トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
8. 2019年度トピックス	26ページ
9. 代表者による全体の評価と見直し	27ページ
10. 環境関連法規制の遵守	27ページ

## タマムラデリカ株式会社 環境経営方針

タマムラデリカ株式会社の「環境経営方針」は、  
当社グループの全工場を含めた全社展開として適用する。

### 〔基本理念〕

タマムラデリカグループは、「食」を基本とする企業として  
「健康的な生活」・「食資源の有効活用」・「環境保全」の三点を  
我々の重要課題であると認識し、自然の恵みを活かし、  
すべての人々がおいしく食べて、健康に暮らしていける  
持続可能な社会の構築に貢献し、日本の食卓を豊かにしていきます。

### 〔基本方針〕

1. タマムラデリカグループの事業活動及び製品がかかわる環境側面を常に意識し、  
環境汚染の予防を推進するとともに、環境経営システムの継続的改善を図ります。
2. タマムラデリカグループのすべての事業活動および製品がかかわる  
環境関連法規、規制、および協定等を遵守し、環境保全を図ります。
3. 環境改善重点テーマ
  - ①食品廃棄物の排出量削減及び再資源化率の向上  
⇒食品リサイクルの取り組み、食品の有効利用の取り組み
  - ②エネルギー利用の合理化の推進と、低炭素社会の実現に向けた多角的取り組み  
⇒多角的取り組みの一例
    - 1) 生産機器の排出熱利用
    - 2) ヒートポンプの活用
    - 3) 高効率機器の導入
    - 4) バイオマスエネルギーの活用
  - ③水資源の有効活用および排水水質の維持管理
  - ④地域の環境改善の推進
  - ⑤環境関係法規の遵守
  - ⑥廃棄物の削減
4. 年間計画に基づき、環境経営システムの見直しおよび維持向上に努めます。
5. 環境教育を通して、全従業員への環境経営方針の理解と周知徹底を行い、  
環境保全の意識の高揚を図ります。
6. この環境経営方針は、社内外にも公表いたします。

### 〔2019年度方針〕

1. ガイドライン2017年版での認証取得
2. EA21アワード（表彰制度）の制定と運用
3. 作業標準の確立（空調メンテナンス）

2019年 2月 1日

タマムラデリカ株式会社

常務 取締役

高橋 康之

## 2. タマムラデリカ株式会社 事業活動の規模（2019年度）

### 1. 事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社  
代表取締役社長 伊勢 俊太郎

### 2. 所在地

本社：〒370-1104 群馬県佐波郡玉村町上福島 611-1

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 常務取締役 高橋 康之  
環境管理責任者 : 飯尾 友朗  
E A 2 1 事務局 : 寺山 浩永  
TEL 0270-65-0711  
FAX 0270-65-1170

### 4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社  
☆本社工場  
☆第二工場  
☆美野里工場  
☆佐野田沼工場  
全組織及び全活動

### 5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

### 6. 事業規模

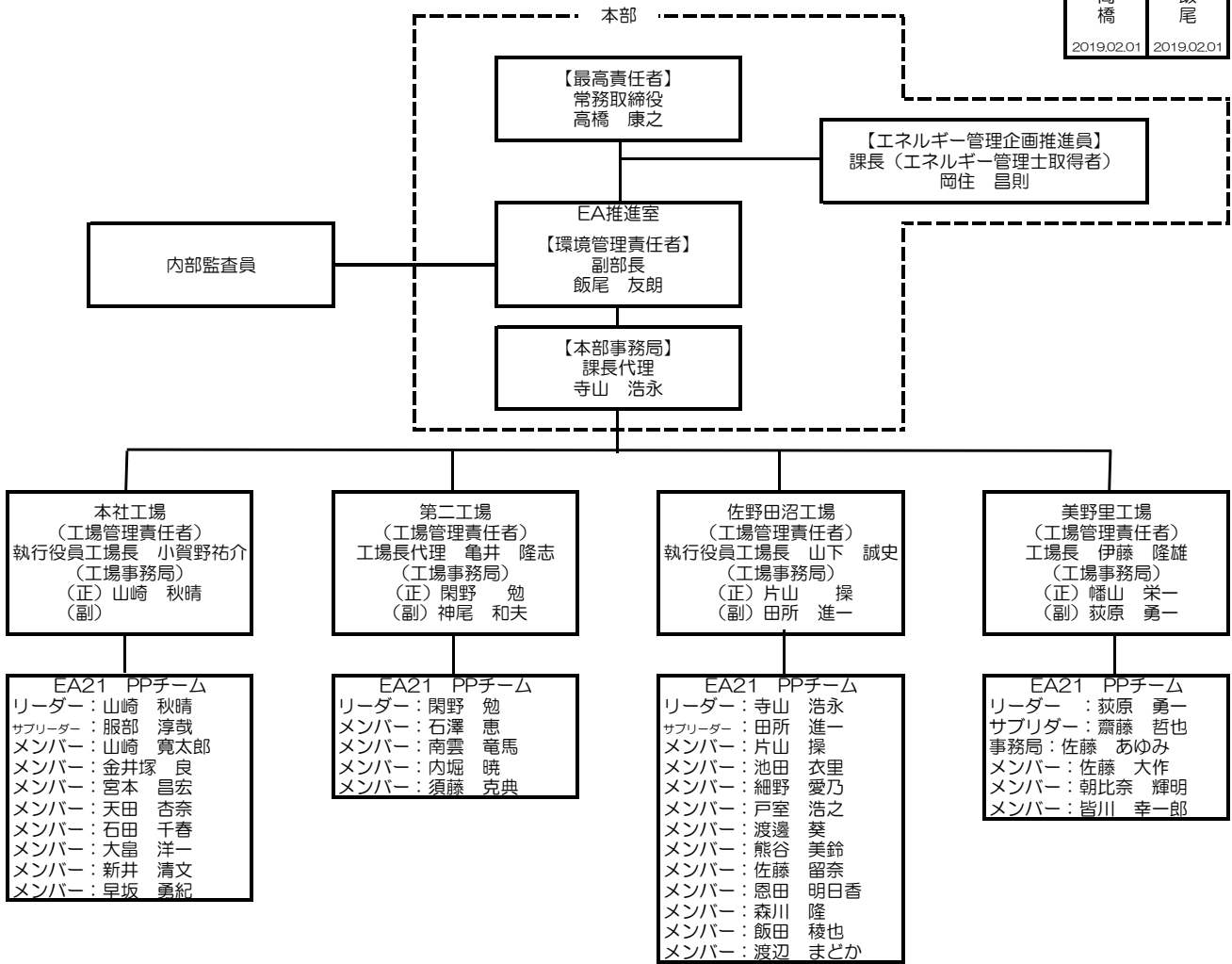
本社工場・第二工場・美野里工場・佐野田沼工場の合算

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
生産高	食	40,378,223	44,204,235	43,242,462
製品売上	百万円	10,025	10,976	11,275
従業員数	人	596	673	818
延べ床面積	m <sup>2</sup>	15701.66	15701.66	15701.66

#### 主な環境負荷実績

環境への負荷	単位	2017年	2018年	2019年
①二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	10,801,547	10,972,831	11,226,589
②廃棄物排出量	kg	496,988	464,239	2,201,485
③排水量	m <sup>3</sup>	538,004	527,512	554,565

承認	作成
高橋	飯尾
2019.02.01	2019.02.01



職名	役割
最高責任者	<p>【常務取締役 高橋 康之】</p> <p>①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく兼任で責任と権限を明示する</p> <p>②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する</p> <p>③環境経営方針を制定する</p> <p>④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直しを行い必要に応じ改訂を指示する</p>
エネルギー管理 企画推進員	<p>【課長（エネルギー管理士取得者） 岡住 昌則】</p> <p>①エネルギー管理に関する中長期計画をグループ全体へ発信、実施状況を確認する</p>
内部監査員	<p>エコアクション21食品関連業者向けガイドライン2009年版（前期）/2017年版（後期）をもとに内部監査を実施する 各工場のEA21 PPチームリーダーが内部監査チェックシートで監査を実施、環境管理責任者へ報告する</p>
環境管理責任者 （工場管理責任者）	<p>EA推進室【副部長 飯尾 友朗】（工場管理責任者は工場長が兼務）</p> <p>①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り目的を達成するために環境管理をする</p> <p>②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い最高責任者による見直しのための情報として構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する</p>
本部事務局	<p>【課長代理 寺山 浩永】</p> <p>本部事務局として環境管理責任者を補佐しエコアクション21に関する実務全般を所管する</p>
工場事務局	<p>【本社工場：山崎 秋晴】【第二工場：関野 勉】【佐野田沼工場：片山 操】【美野里工場：幡山 栄一】</p> <p>工場事務局として工場管理責任者を補佐しエコアクション21に関する実務全般を所管する</p>
EA21 PPチーム	<p>エネルギーと廃棄物に関する管理データをもとに小集団活動で改善を実践する</p>
従業員	<p>環境経営方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する</p>

## 本社工場 事業活動の規模（2019年度）

### 1. 事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社 本社工場  
代表取締役社長 伊勢 俊太郎

### 2. 所在地

〒370-1104 群馬県佐波郡玉村町上福島 611-1

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 常務 取締役 高橋 康之  
環境管理責任者 : 副部長 飯尾 友朗  
担当 : EA21事務局 山崎 秋晴  
TEL : 0270-65-0711  
FAX : 0270-65-1170

### 4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社 本社工場 全組織及び全活動

### 5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

### 6. 事業規模

(本社工場)

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
生産高	食	11,134,086	12,458,222	11,867,895
製品売上	百万円	2,741	3,011	2,999
従業員数	人	144	194	249
延べ床面積	m <sup>2</sup>	3,531	3,531	3,531

## 本社工場 環境目標とその実績

当社に於ける2019/2/1～2020/1/31の環境負荷実績を把握し、2018年～2021年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

### 1. 環境目標とその実績

\*購入電力の排出係数は、0.474〔平成28年度実績・平成29年12月21日公表〕を使用しています。

\*2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2018年	2019年				2021年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	1167	2018年実績に対して1%削減	1155.4	1158.3	空調機の入替の実施、照明器具のLED照明への交換実施、番重洗浄機の入替(省エネ機)等を実施。削減率4.49%とし目標を達成。今後、廃油燃料を使用した発電機等のバイオマスエネルギーの回収を行う。	1132
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	264.2	2018年実績に対して1%削減	261.5	166.7	2019年1月より食品残渣回収業者の変更に伴い、分別を強化。業者回収前に食品残渣の水切りを実施し、排出量を大きく減少することができた。削減率44.09%とし目標達成。この取組でEA21アワードを受賞。今後、食品残渣の減量対策(減量機)を検討中。	256.2
③売上高100万円当たりの排水量の削減(m <sup>3</sup> )	53.24	2018年実績に対して1%削減	52.2	51.5	生産ラインの絞り込み、節水の意識から排水量削減。削減率4.21%とし目標達成。しかし、今後、冷水使用量が多くなる傾向にあり、今後、循環型の冷水使用など検討中。	51.64
④グリーン購入比率の向上(%)	—	購入率47%	—	—	グリーン商品購入のデータ集計は2018年より実施しており現在も継続中。今年度購入比率は47.6%を上回った。	購入品リストによるグリーン購入の徹底
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	取扱量の把握	—	—	取り扱い商品の把握を行い一覧表作成済。入手したSDSの整理とファイリングも実施済みであり、新規の商品のメンテナンスも実施し継続して行う。また、化学物質の特定と購入量のデータ集計を開始	管理の徹底
⑥再生利用等の実施(肥料化へ食品リサイクル:NDF)	100	維持向上	80%以上	100%	リサイクル率100%の実績。排出量が多い。冷凍検体の分解や、フラ区分、区分けについて力をいれ、従業員一同意識が向上した。	—
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—	—	—	—	工場内樹木の剪定を実施し落ち葉等のゴミ発生のリスクを回避。②は特に田植え前の実施、③は朝市等の参加④は群馬県産の小麦を原料にした小麦を継続使用し、月別の使用量の集計継続。	—

### 2. 主な環境負荷実績

\*2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境への負荷	2017年	2018年	2019年
①二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	3,478,223	3,487,046	3,468,419
②廃棄物排出量(kg)	152,520	125,160	499,243
③排水量(m <sup>3</sup> )	190,572	160,902	154,135

## 本社工場 環境活動計画の取組みと評価

\*2019年2月～2020年1月までの活動の取組みと評価をしております。

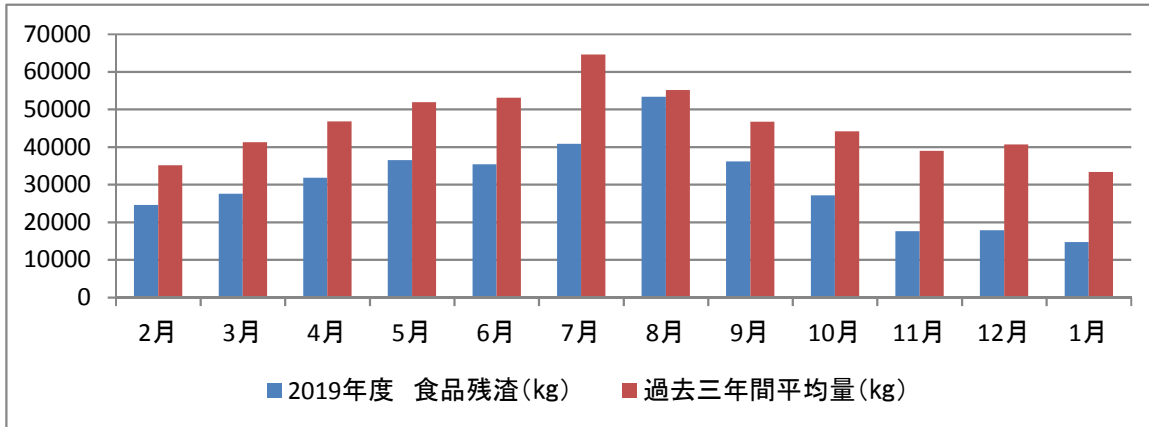
環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
<b>1. 二酸化炭素排出量の削減</b> ①茹で釜蒸気入れ時間管理 ②製麺加水タンク冷水⇒常温へ ③製品保管庫空調稼働台数制限※時期に応じて ④旧空調の入れ替え ⑤気化式冷風機の導入 ⑥目標達成状況・活動進捗状況確認	空調機の入替えの実施、照明器具のLED照明への交換実施、番重洗浄機の入替え（省エネ機）等を実施。削減率4.49%とし目標を達成。 今後、廃油燃料を使用した発電機等のバイオマスエネルギーの回収を行う。番重洗浄機の入替での省エネ機器検証数値の評価はできる。
	<b>次年度の取組内容</b>
	今後2020年からの設備機器導入・更新の計画に当りユーティリティ関係の比較検証も取り入れ、更なる削減を目標としていく。
<b>2. 廃棄物排出量の削減</b> ①分別強化 廃プラに食品混入を撲滅 ②紙・手袋混入の撲滅 ③分別強化（汚プラ・きれいな有価プラ） ④鉄クズの分別（アルミ・SUS・鉄） ⑤目標達成状況・活動進捗状況確認	2019年1月より食品残渣回収業者の変更に伴い、分別を強化。業者回収前に食品残渣の水切りを実施し、排出量を大きく減少することができた。削減率44.09%とし目標達成。この取組でEA21アワードを受賞。今後、食品残渣の減量対策（減量機）を検討中。食品残渣削減の評価は大きい。
	<b>次年度の取組内容</b>
	2019年同様に取り組みを継続し続けるよう取り組む。
<b>3. 排水量の削減</b> ①節水への取り組み ②節水表示 ③目標達成状況・活動推進状況確認	生産ラインの絞り込み、節水の意識から排水量削減。削減率4.21%とし目標達成。しかし、今後、冷水使用量が多くなる傾向にあり、今後、循環型の冷水使用など検討中。
	<b>次年度の取組内容</b>
	循環式を導入する事により冷水使用量の傾向を再度確認。各部署の節水状況へも現場確認すると何も無い状態で垂れ流し状態もある為、取組自体を部署単位でおこなうようにしていく。
<b>4. グリーン購入比率の向上</b> ①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の決定	グリーン商品購入のデータ集取は2018年より実施しており現在も継続中。今年度購入比率は47.6%を上回った。
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き継続する。
<b>5. 化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底</b> ①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成	取り扱い商品の把握を行い一覧表作成済。入手したSDSの整理とファイリングも実施済みであり、新規の商品のメンテナンスも実施し継続して行う。また、化学物質の特定と購入量のデータ集計を開始
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き継続する。
<b>6. 再生利用等の実施率</b> （肥料化へ食品リサイクル：NDF） ①冷凍サンプルの適切処理（再生利用化） ②区分・区分け、分別の徹底	リサイクル率100%の実績。排出量が多い。冷凍検体の分解や、プラ区分、区分けについて力をいれ、従業員一同意識が向上した。
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き継続する。新規従業員への初期教育が重要。
<b>7. 地域の環境改善の推進・製品に関する項目再生利用等の実施率</b> ①工場敷地内の清掃 ②工場敷地外の清掃 ③地域ボランティアへの参加 ④地産地消の推進	工場内樹木の剪定を実施し落ち葉等のゴミ発生リスクを回避、②は特に田植え前の実施、③は朝市等の参加④は群馬県産の小麦を原料にした小麦を継続使用し、月別の使用量の集計継続。
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き継続する。



## 2019年度トピックス 本社工場

### 食品残渣削減の取り組み

食品残渣回収業者の変更に伴い、分別を強化。業者回収前に食品残渣の水切りを実施し、排出量を大きく減少することができた（削減率約44%）



#### ①食品残渣の水切りの実施

業者回収前に自社で水切りを行い、排出量の削減を行った。

回収コンテナ、  
ジャンボックスで  
水切りを実施



#### ②食品残渣飼料化の取り組み

11月から一部食品残渣の飼料化リサイクルを実施。

専用通いコンテナ  
にて粉ものを飼



#### ③分別の強化・細分化

上記、取組により食品残渣の分別強化を取組み、混在・野菜くず・粉ものの大きく3種類に分別を工場全体で実施。また、袋から出してジャンボックスに投棄する方法に変更したことで、廃棄物の見える化になり分別への意識が向上した。



## 本社工場 代表者による全体の評価と見直し

（代表者）：常務取締役 高橋 康之 2020年4月24日

新リーダーを中心とした活動は設備目線として数値検証・分析する事で徐々にではあるが取組が定着してきた(地味な活動ではあるが食品残渣分別、脱水業務の継続)。コツコツと積み上げた成果が大きな改善活動に繋がったと評価。但しメンバー全員が積極的に改善活動に参加し取組を押し上げたというより実務担当者の誠実な業務姿勢に負うところが大きい。

とは言え長年の課題であった食品残渣の削減について大きな削減効果をもたらした実績は素晴らしい。

今期創設したEA21アワードの受賞に相応しいと判断。

（工場長）：執行役員工場長 小賀野 祐介 2020年4月23日

食品残渣回収業者の切り替えという現場環境の変化に対し、EA21メンバーを中心に変化への対応を行い、さらに現場の工夫でピンチをチャンスに変え、食品残渣排出量の削減することができた。今後の取り組みとして、減容機や省エネ設計機器の導入などハード面での改善取組を実施して行きたい。今回のような「動く」事で絶大な効果は評価に値する。今後の良い活動事例として、継続的に紹介していきたい。

## 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出	遵法
水質汚濁防止法	特定施設の届出	遵法
騒音規制法	騒音特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設設置の届出	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
消防法	届出・貯油施設の定期点検	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所 の表示、漏、流出の防止	遵法
群馬県の生活環境を保全する条例	特定施設の届出	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2020年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 第二工場 事業活動の規模（2019年度）

### 1. 事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社 第二工場  
代表取締役社長 伊勢 俊太郎

### 2. 所在地

〒370-1104 群馬県佐波郡玉村町上福島 618-2

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 常務 取締役 高橋 康之  
環境管理責任者 : 副部長 飯尾 友朗  
担当 : EA21事務局 閑野 勉  
TEL : 0270-61-7888  
FAX : 0270-61-7889

### 4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社 第二工場 全組織及び全活動

### 5. 事業の内容

コンビニエンスストア向け軽食・惣菜等の開発・製造

### 6. 事業規模

(第二工場)

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
生産高	食	5,318,135	5,517,093	5,801,797
製品売上	百万円	1257	1,316	1,464
従業員数	人	112	139	151
延べ床面積	m <sup>2</sup>	4,439.61	4,439.61	4,439.61

## 第二工場 環境目標とその実績

当社に於ける2019/2/1～2020/1/31の環境負荷実績を把握し、2018年～2021年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

### 1. 環境目標とその実績

\*購入電力の排出係数は、0.474〔平成28年度実績・平成29年12月21日公表〕を使用しています。

\*2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境目標	基準値		今年度目標			中長期の目標 (2年後)
	2018年		2019年			2021年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	823.4	2018年度に対して0.33%	820.7	775.29	現場と事務所共に、照明器具、空調への節水節電の注意喚起の表示の作成を実施、事務所など各基準の明示を行なう事により、従業員の意識向上が見られた。工場稼働率上昇により、全体の数字については目標値に未達成。今後、工場内の階段等はセンサーライトに検討する。	815.2
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	253.7	2018年度に対して0.33%	252.8	234.30	現場への表示、ゴミ箱の増設、朝礼アナウンス等を実施。生ゴミも野菜の端材と調理後食材を分けて実施。目標値には達成していないが、ゴミの分別意識向上が一番成果が出ており従業員全体で行動できた。	251.2
③売上高100万円当たりの排水量の削減(m <sup>3</sup> )	28.23	2018年度に対して0.33%	28.14	28.23	社内の水道がある箇所は掲示してアナウンスし啓発に努められた。またゼラチン系の冷水冷却していた物を差圧冷却に変更した。	27.9
④グリーン購入比率の向上(%)	—	購入品リストによるグリーン購入の徹底	—	—	必要備品や事務用品などを購入するときはグリーン購入に優先して選定できた。今後も継続に努めていく。	グリーン購入品の優先
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	管理の徹底	—	—	一覧表の定期的な更新とSDSの入手一整備の継続、購入量の集計。薬品の使用時の注意ポイントを落とし込みを継続する。	管理の徹底
⑥再生利用等の実施(肥料化へ食品リサイクル:NDF)	100%	維持向上	80%以上	100%	リサイクル率100%の実績。冷凍検体の分解や、プラ区分、区分けについて力をいれ、従業員一同意識が向上し継続に努めていく。	維持向上
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—	—	—	—	計画的に沿って環境清掃が出来た。工場内の樹木の剪定を実施、落ち葉等、ゴミの回避。地域の朝市に参加。地産地消の促進は出来ていない。	—

### 2. 主な環境負荷実績

\*2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境への負荷	2017年	2018年	2019年
①二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	1,075,238	964,262	1,136,254
②廃棄物排出量(kg)	55,758	67,794	343,392
③排水量(m <sup>3</sup> )	35,431	38,169	41,368

## 第二工場 環境活動計画の取組みと評価

\*2019年2月～2020年1月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
<b>1.二酸化炭素排出量の削減</b> ①事務所省エネエアコン入替 ②電気・機器不要時の電源OFF推進 ③各現場・共有エリアエアコン清掃 ④目標達成状況・活動推進状況確認	表示物による意識向上は確認されたが、物理的な対策が弱かったと感じる。
	<b>次年度の取組内容</b>
	環境面も変化しており8割外国雇用も視野に入れ誰もが対応を今後は検討して頂きたい。
<b>2.廃棄物排出量の削減</b> ①廃プラ・ダンボール紙等の分別 ②電池ゴミの削減 (充電電池への切り替え) ③電子マニフェストへの切替・確認 ④目標達成状況・活動推進状況確認	2019年従業員さんも巻き込んで実施した取組みとして評価できる。分別には当初苦戦したが、カット時からのごみ箱分けなどいかに効率よく分別が出来るか工夫が生まれたのは良い点であった。
	<b>次年度の取組内容</b>
	廃乾電池の削減の取組みが遅れており、次年度は充電電池を使用しリサイクルすることにより廃乾電池の削減に努めたい。
<b>3.排水量の削減</b> ①毎月のメーターを確認する (漏水防止) ②節水表示(各現場・共有場所) 従業員への周知 ④目標達成状況・活動推進状況確認	節水の意識は勿論向上したが物理的な変更で対応。今後のアイテム構成にもよるが工程に左右されない取組みが必要
	<b>次年度の取組内容</b>
	今後も継続に努めていく。
<b>4.グリーン購入の推進</b> ①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定・決定	必要備品や事務用品などを購入するときはグリーン購入に優先して選定できた。
	<b>次年度の取組内容</b>
	今後も継続に努めていく。
<b>5.化学物質・毒物劇物 取扱い及び管理の徹底</b> ①取扱い商品の把握 ②購入品の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成	一覧表の定期的な更新とSDSの入手→整備の継続、購入量の集計。薬品の使用時の注意ポイントを落とし込みを継続する。
	<b>次年度の取組内容</b>
	使用している毒劇物薬品に変わり、安全性、環境に配慮された薬品への入替を検討中。薬品管理の簡易化を狙っていきたい。
<b>6.再生利用等の実施率</b> (堆肥化へ食品リサイクル：NDF) ①分別・区分けの徹底 (廃プラ・生ゴミ・紙・手袋)	リサイクル率100%の実績。
	<b>次年度の取組内容</b>
	冷凍検体の分解や、プラ区分、区分けについて力をいれ、従業員一同意識が向上し継続に努めていく。
<b>7.地域の環境改善の推進</b> ・製品に関する項目 ①工場敷地内の清掃 ②地産地消の推進	会社として地域イベントやボランティア参加をしている工場はある。積極的、進んで参加する意識へもっていく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	地産地消食材を使用した惣菜、軽食にチャレンジ。



## 第二工場 代表者による全体の評価と見直し

(代表者)：常務取締役 高橋 康之 2020年4月24日

工場内での掲示物、啓蒙活動は前年に比べ進んだと感じるが定期的なアップデートが追いついていない。

個々の活動は確認出来るがチームとして活動しているか？

チームとして計画に沿っての検証・分析が出来ていたか？

目に見えない食品残渣廃棄、食材ロスも散見されてる。

来期は改めてメンバーとの目的の目合わせ、共通認識を確認し計画立案、役割分担を明確にし選択と集中を是として取組を期待する。

(工場長)：工場長代理 亀井 隆志 2020年4月23日

空調機の入替や照明のセンサー化など、ハード面での取組を進めることができた。チームでの活動が乏しい、今後はEA21メンバーは本社、第二の垣根を無くし混合メンバーで小集団活動を実施し、取組を行うように努める。

## 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出	遵法
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
消防法	特定施設の届出	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施設管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
労働安全衛生法	健康診断の実施	遵法

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2020年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 美野里工場 事業活動の規模（2019年度）

### 1. 事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社 美野里工場  
代表取締役社長 伊勢 俊太郎

### 2. 所在地

〒319-0136 茨城県小美玉市手塚198

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 常務 取締役 高橋 康之  
環境管理責任者 : 副部長 飯尾 友朗  
担当 : EA21事務局 幡山 栄一  
TEL : 0299-36-7611  
FAX : 0299-36-7612

### 4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社 美野里工場 全組織及び全活動

### 5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

### 6. 事業規模

（美野里工場）

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
生産高	食	11,307,831	12,199,739	12,499,773
製品売上	百万円	2,975	3,238	3,531
従業員数	人	244	271	285
延べ床面積	m <sup>2</sup>	3169.85	3169.85	3169.85



## 美野里工場 環境目標とその実績

当社に於ける2019/2/1～2020/1/31の環境負荷実績を把握し、2018年～2021年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

### 1. 環境目標とその実績

\* 購入電力の排出係数は、0.474〔平成28年度実績・平成29年12月21日公表〕を使用しています。

\* 2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2018年	2019年				2021年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	1034	2018年度の実績に対して3%削減	1003.4	935.7	二酸化炭素の排出量が計画比7.79%増えている。2019年7月からペレットボイラーの運用開始。B釜の更新によって保温効果が高く蒸気の削減に繋がった。照明不要時のOFF推進、工場内の蒸気洩れ箇所の修理を実施した。売上の増によって電力の使用量は増えたが、LPG、軽油の使用量は削減できた。今年度は電力会社の見直しと、ペレットボイラーの更なる運用によって目標の達成を目指していく。	D釜の更新によって蒸気使用量削減、蒸気漏れ箇所の修繕、ペレットボイラー温水の更なる利用(D釜へ)
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	221.7	2018年度の実績に対して5%削減	210.6	212.0	廃棄物は計画比0.68%増えている。産業廃棄物置き場での分別が出来る様整理する。食品残渣の削減については、製造過多・製造不良を抑えることが出来る、目標未達という結果となった。今年度は各作業場へ情報の共有をし意識改善を図っていく。	三層麺機の導入による練り無駄の削減、D釜の更新によって茹で釜由来の残渣削減。
③売上高100万円当たりの排水量の削減(m <sup>3</sup> )	55.7	2018年度実績に対して5%削減	52.9	55.7	排水量は計画比5.00%増えている。工場内での節水に対する指導は行ったが、現場での節水の徹底が行われていなかった。又、麺に使用する冷水(品質改善)の使用量が増えた結果、目標未達となった。	D釜の更新(冷水の循環型)による冷水の削減。各作業場への給水に流量計を取付ける。
④グリーン購入比率の向上(%)	—	現状把握			購入する際の確認、購入金額の集計はするようになったが、購入品のリストを作り、購入品全ての購入率を算出するまでには至らなかった。	購入品リストの作成、購入率の把握
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	取扱量の把握			新規の溶剤等を使用する際は必ずSDSを入手し、化学物質の含有量について調査・確認を実施し、年間の使用量の把握が出来た。	管理の徹底
⑥再生利用等の実施(肥料化へ食品リサイクル:NDF)	—	持続向上	80%以上		食品残渣の堆肥化リサイクル100%と実施の継続、産業廃棄物の分別・表示及び分別出来るよう屋根付きの置き場を設置したが、分別がまだ出来ない。	—
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—				敷地内清掃・側溝の清掃が計画の50%と未達成。常陸秋そば粉を使用した商品開発・販売を行う。ローズホークを使った商品開発・販売を行う。地元キャハツや長ネギの使用により地域への貢献も出来た。	—

### 2. 主な環境負荷実績

\* 2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境への負荷	2017年	2018年	2019年
①二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	3,196,754	3,325,039	3,313,447
②廃棄物排出量(kg)	147,510	132,680	750,730
③排水量(m <sup>3</sup> )	134,745	142,376	181,687

## 美野里工場 環境活動計画の取組みと評価

\*2019年2月～2020年1月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
<b>1. 二酸化炭素排出量の削減</b> ①空調温度適正化・表示 ②照明不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥電力、ガソリン量の集計	美野里工場がタマムラグループとして先行してペレットボイラーを導入。運用については番重洗浄から始め、加熱調理のゼラチンへシフト。ゼラチンの繁忙期には製造に大きく貢献。加工課の生産性において+9.9P/月、人時-68Hの削減。金額では-1405,792円と効果が出た。
	<b>次年度の取組内容</b>
	従来の小袋スープからストレートスープに切り替わる商品も多く予定なので、数値改善に大きく期待している。
<b>2. 廃棄物排出量の削減</b> ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物排出量の集計 ④裏紙廃棄ルールの徹底	過多製造の抑制がテーマであったが、結果が出なかった。特に、製麺課由来の麺廃棄が多く出てしまった。要因としては、設備的な不具合、老朽化による不具合も多分にあった。2019年度下期に新規導入で茹で釜を入れるも、季節柄、稼働率を上げられていない。
	<b>次年度の取組内容</b>
	新規の茹で釜を製造の主軸におくことで、麺廃棄削減に取り組んでいきたい。
<b>3. 排水量の削減</b> ①毎月のメータを確認する（漏水防止） ②節水表示	製造部署の節水への意識を上げられなかったことが悔やまれる。茹で釜への給水など特に意識が低く、管理が杜撰であった。
	<b>次年度の取組内容</b>
	PPチームを中心に啓蒙活動を展開。表示の見直し。
<b>4. グリーン購入の推進</b> ①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の決定	購入する際の確認、購入金額の集計はするようになったが、購入品のリストを作り、購入品全ての購入率を算出するまでには至らなかった。
	<b>次年度の取組内容</b>
	購入品の算出を行う。
<b>5. 化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底</b> ①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成	新規の溶剤等を使用する際は必ずSDSを入手し、化学物質の含有量について調査・確認を実施し、年間の使用量の把握が出来た。
	<b>次年度の取組内容</b>
	年間の使用量に加えて各部門ごとの使用量を把握する。
<b>6. 再生利用等の実施率（肥料化へ食品リサイクル：NDF）</b> ①分別・区分けの徹底 ②専用置場の整備	食品残渣の堆肥化リサイクル100%と実施の継続、産業廃棄物の分別・表示及び分別出来るよう屋根付きの置き場を設置したが、分別がまだできていない。
	<b>次年度の取組内容</b>
	PPチームを中心に啓蒙活動を展開。
<b>7. 地域の環境改善の推進・製品に関する項目</b> ①工場敷地内の清掃 ②側溝の清掃 ③地産地消の推進	敷地内清掃・側溝の清掃が計画の50%と未達成。常陸秋そば粉を使用しての商品開発・販売を行う。ローズボークを使った商品開発・販売を行う、地元キャベツや長ネギの使用により地域への貢献も出来た。
	<b>次年度の取組内容</b>
	敷地内清掃・側溝の清掃100%。常陸秋そば粉使用の商品開発・販売を行う。ローズボークを使った商品開発・販売を行う、地元キャベツ使用により地域への貢献、奥久慈しゃもの商品開発。

# 2019年度トピックス 美野里工場

## 場外清掃



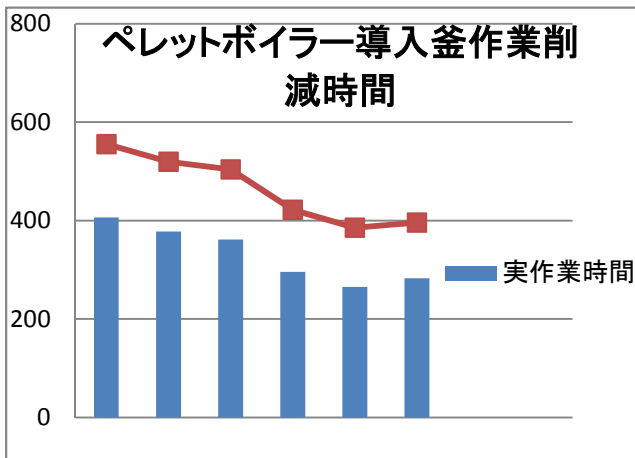
## 木ペレット



## ペレットボイラー



## 熱交換器



- 木ペレットを燃やし70℃のお湯を作り作業場（加工課）釜に供給している。
- ボイラーで温めたお湯を使って具材を作る時間差を削減効果として算出している。
- LPG燃料費の削減にも繋がる

## 美野里工場 代表者による全体の評価と見直し

**（代表者）：常務取締役 高橋 康之 2020年4月24日**

最大のハード面での変化は8月に稼働した「ペレットボイラー」導入である。効果が見えるには2020年度～と想定するが使用するだけでカーボンニュートラル効果によりCO2削減が見込まれる。  
一方、2019年のEA21活動としては個々のメンバーの役割分担が不明確でルーティン業務も滞っていると感じた。  
リーダーを中心とした計画立案、活動の検証・分析が不明。  
チーム編成も設備に偏っていると感じる。  
来期は改めてチーム再編と計画に沿った、取組を期待する。

**（工場長）：工場長 伊藤 隆雄 2020年4月23日**

2020年度は、メンバーも新たに加え、EA21チームとして活動を再開。ペレットボイラーの効果検証も少しずつ見え始めている。今後は、検証データを基に、美野里工場における工場経費の効果、社員1人1人への意識付けを進めていきたい。

## 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
水質汚濁防止法	特定施設の届出、環境計量証明書	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
消防法	危険物貯蔵取扱い届出、防火管理者の届書、消防用設備等設置届書、消防計画作成（変更）届書	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告 水 銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
毒物及び劇薬取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏れ流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2020年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 佐野田沼工場 事業活動の規模（2019年度）

### 1. 事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社 佐野田沼工場  
代表取締役社長 伊勢 俊太郎

### 2. 所在地

〒327-0323 栃木県佐野市戸奈良町2504番地1

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 常務 取締役 高橋 康之  
環境管理責任者 : 副部長 飯尾 友朗  
担当 : EA21事務局 片山 操  
TEL 0283-85-7711  
FAX 0283-85-7117

### 4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社 佐野田沼工場 全組織及び全活動

### 5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

### 6. 事業規模

（佐野田沼工場）

活動規模	単位	2017年	2018年	2019年
生産高	食	12,619,681	14,029,181	13,072,997
製品売上	百万円	3,052	3,411	3,281
従業員数	人	140	140	133
延べ床面積	m <sup>2</sup>	4561.20	4561.20	4561.20

## 佐野田沼工場 環境目標とその実績

当社に於ける2019/2/1～2020/1/31の環境負荷実績を把握し、2018年～2021年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

### 1. 環境目標とその実績

\* 購入電力の排出係数は、0.474〔平成28年度実績・平成29年12月21日公表〕を使用しています。

\* 2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2018年	2019年				2021年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	954.1	2018年度に対して1%減	944.6	1007.2	売り上げ100万円当り二酸化炭素排出量が6.22%増加、電気使用量が4.34%増加。 2019年9月～、軽食の原種の製造、供給開始により、生産設備稼働率が上昇。 長梅雨・冷夏の影響により、加熱調理工程を多く含むカップ種が伸長し、LPG使用量が8.04%増加している。 製造設備増設として、受注数増に対応し、空調・冷水・省人化機器の導入。今後も省人化、効率化などを検討し設備投資など行っていくため、電気使用量は増える可能性がある。また、カップ種の伸長が年々見られており昨年度にLPGも使用量が揃える可能性がある。 現場の稼働の適正化・適切なメンテナンスを行い、削減に努めていく。	997.2
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	162.6	2018年度に対して1%減	160.9	185.1	売り上げ100万円当り廃棄物が13.07%増加。 二酸化炭素排出量と同様、長梅雨・冷夏の影響により、加熱調理工程を多く含むカップ種が伸長し、9月以降の排出量の増加が見られている。	183.3
③売上高100万円当たりの排水量の削減(m <sup>3</sup> )	54.0	2018年度に対して1%減	53.5	54.0	売り上げ100万円当り排水量が0.95%増えている。 従業員への節水のアナウンス、節水水使用の基準表示の作成を今後進め、水の使用量の過多を未然防止する取組みを進めていく。また、冷凍装置などの設備投資により、今後の排水使用量の減少が見込まれる。	53.5
④グリーン購入比率の向上(%)	—	現状の把握と購入リストの作成	—	—	・物品購入品を洗い出し、グリーン購入適合品の調査をおこない、現状把握できた。 ・購入品が多いため、今後の活動は購入金額の多いものを選定して調査する。	購入品リストによるグリーン購入の徹底
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	現状の把握と購入リストの作成	—	—	・年間を通して溶剤等の購入量が把握できた。	管理の徹底
⑥再生利用等の実施(肥料化へ食品リサイクル:NDF)	—	維持向上	80%以上	—	・植物性残渣リサイクル率100%、売上増により排出量が増えてきている。ゴミの分別ルールの徹底、PPチームの環境教育を受け、各部署での朝礼のアナウンスにより従業員の意識向上ができた。	100%継続
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—	工場敷地内の清掃	—	—	・地域貢献として工場周辺のPPチーム中心としたゴミ拾い活動をした。自動販売機ゴミ箱にエコキャップ回収箱の設置。活動を年間を通してきており、従業員の意識改革向上ができた。	—

### 2. 主な環境負荷実績

\* 2019年の実績は、2019年2月～2020年1月の一年間です。

環境への負荷	2017年	2018年	2019年
①二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	3,051,332	3,196,484	3,308,469
②廃棄物排出量(kg)	141,200	138,605	608,120
③排水量(m <sup>3</sup> )	177,256	186,065	177,375

## 佐野田沼工場 環境活動計画の取組みと評価

\*2019年2月～2020年1月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
<b>1. 二酸化炭素排出量の削減</b> ①空調温度適正化・表示 ②照明不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥電力、ガソリン量の集計	節電の表示等、今年については、その日の生産数に合わせて使用する機械（茹で釜）の限定を強化し、朝礼などでアナウンスを中心に取組みを実施。これからもより踏み込み、機械の動作時間の適正化等、目に見える取組みを進めていく必要がある。使用している電力、水などの使用料を見える化していきたい。各機器、各使用の基準の明確化を進め削減目標を周知徹底していく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	その日の生産数に合わせて使用する機械（茹で釜）の限定を強化していく。また使用している電力、水などの使用量を見える化の取組みをしていく。
<b>2. 廃棄物排出量の削減</b> ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物排出量の集計 ④裏紙廃棄ルールの徹底	今後について、分別の徹底、リサイクルの推進を進める。継続した掲示、情報共有を行い、従業員の意識向上をはかりながら、会社全体として取組みを継続する。
	<b>次年度の取組内容</b>
	分別の徹底、リサイクルの推進を進める。従業員の意識向上をはかりながら、会社全体として取組みを継続する。
<b>3. 排水量の削減</b> ①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水推進(掲示板に表示) ③トイレの節水表示	その日の生産数に合わせて使用する機械（茹で釜）の限定を強化し、より踏み込んだ機械の動作時間の適正化等、目に見える取組みを進めていく必要がある。
	<b>次年度の取組内容</b>
	その日の生産数に合わせて使用する機械（茹で釜）の限定を強化の他、水などの使用量を見える化の取組みをしていく。
<b>4. グリーン購入の推進</b> ①購入品の調査 ②グリーン購入品の選定 ③グリーン購入品の決定	今後も引き続き、グリーン購入適合品で購入できるものは検討していく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	グリーン購入適合品で購入できるものは引き続き検討していく。
<b>5. 化学物質・毒物劇物 取扱い及び管理の徹底</b> ①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成	引き続き、年間を通して溶剤等の購入量の把握を行っていく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き、年間を通して溶剤等の購入量の把握を行っていく。
<b>6. 再生利用等の実施率 (肥料化へ食品リサイクル：NDF)</b> ①分別・区分けの徹底 ②専用置場の整備	引き続き、ゴミ分別ルールの徹底などに取組みリサイクルを行っていく。排出量が少なるように取り組んでいく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	引き続き、ゴミ分別ルールの徹底などに取組みリサイクルを行っていく。排出量が少なるように取り組んでいく。
<b>7. 地域の環境改善の推進・ 製品に関する項目</b> ①工場敷地内の清掃 ②側溝の清掃 ③地域クリーン活動	ゴミ拾い活動、エコキャップ回収などは、地域貢献に繋がっていく活動になるので、継続して活動していく。
	<b>次年度の取組内容</b>
	ゴミ拾い活動、エコキャップ回収などは、地域貢献に繋がっていく活動を継続し推進していく。





## 佐野田沼工場 代表者による全体の評価と見直し

(代表者)：常務取締役 高橋 康之 2020年4月24日

大きな取組は見受けられないが一貫して途切れる事無く、工場全体としてコツコツと啓蒙活動を続けている事が最大の評価。  
屋外清掃活動等、地域貢献も定着しており工場長自らが積極的に参加している事は工場全体の士気を高めている。  
新しいメンバーも積極的に参加、活動貢献している。

(工場長)：執行役員工場長 山下 誠史 2020年4月23日

ユーティリティ、製造機械の導入増設実施を行い、エネルギー使用量について増加が見られている。今後も、人手不足に対応するため、機器導入を進める必要がある。  
その中で、生産設備の稼働時間の適正化、定期的なメンテナンスによる、機械能力の維持、省エネ・高効率機器の導入により使用量の適正化を継続していく。  
エコキャップの取り組みで従業員の環境に対する意識向上が見られている。  
屋外清掃活動等の地域貢献を行いながら、会社全体の取り組みを継続していく。

## 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出	遵法
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
消防法	届出・貯油施設の定期点検	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所 の表示、漏、流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2020年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 2019年度トピックス エコアクション21年間表彰

### 【タムラデリカEA21アワード2019】の制定

#### 【目的】

エコ活動表彰を公正かつ円滑に行うとともに、エコ活動の功績をたたえることで、活動に対する意欲向上、士気の高揚および活動の改善を促すことを目的とする。タムラデリカ株式会社に勤務するすべての従業員に適用し表彰対象はチーム単位とする。

#### 【選考方法】

表彰の対象工場および表彰方法は、表彰審査委員会で審査のうえ、最高責任者が決定する。

#### 【第1回グランプリ】

本社工場  
「食品残渣削減プロジェクト」

#### 【選考理由】

エコ活動にて有益な活動や改善を提案し、業務能率の向上、環境保護貢献するなどの効果が認められた



表彰状の授与

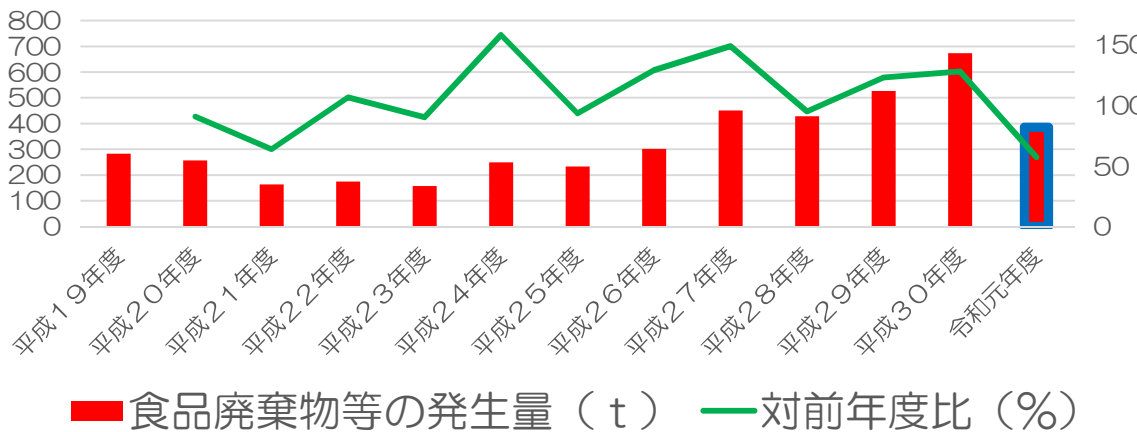


EA21アワードカップの授与



本社での授与式

### 本社工場食品廃棄物推移



## タムムラデリカ株式会社 代表者による全体の評価と見直し

2019年は総じて計画に対しての行為が伴っておらず、検証・分析が不足していると感じる期であった。前年に引き続き「作業の標準化」「評価基準の統一」「組織再編による人材育成」の継続取組は成果として一部見受けられた。

チームの編成としてはリーダー任期は3年程度が適当と判断、それ以上はマンネリ化しやすく、弊害も多い。

又、特定部署に偏ったチーム編成は実務との乖離が多く、特定人物が業務過多に陥る。ポイントは資材、総務、経理（お金、人、書類）が通過する部署をメンバーに参画させる事である。E A21活動は特別な取組ではなく、当たり前前としての業務に組み込む事が近々の課題。

美野里工場でのペレットボイラー導入はカタログハウス様、仲栄工業様、地域を巻き込んでの広範囲での取組であり複数年かけての取組の第一歩、今後の検証・分析を2020年以降積み上げていく。

E A21活動のモチベーションアップの為、「E A21アワード」を創設した。

改めて会社としてのE A21の位置づけを従業員に示した事で来期以降、更なるE A21活動の推進を期待出来る。

2019年は2009年版ガイドラインを適用したが2020年は2017年版ガイドラインを適用予定。

地球規模での環境配慮、SDGsが提唱されている中、より地域と環境に寄り添った企業活動を実践する。

弊社の掲げる「100年企業」「ONEタムムラ」の実現、持続可能な企業活動を実現していく。

2020年4月24日

タムムラデリカ株式会社 常務取締役  
高橋 康之

## タムムラデリカ株式会社 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出	遵法
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告	遵法
水銀使用製品産業廃棄物の管理	契約書、マニフェストに 排水銀の記載 排水銀専用の置き場	遵法
消防法	特定施設の届出	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施設管理、使用量把握、貯蔵場所 の表示、漏、流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出	遵法
茨城県霞ヶ浦水質保全条例	特定施設の届出・排水水質検査の実施	遵法
群馬県の生活環境を保全する条例	特定施設の届出	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法

2020年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への

違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。